



2015
平成27年

3

きずな

K I Z U N A



いのち

ささえあって いのち輝いて



- ② グラフで見る
「東日本大震災やそれに伴う
福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題」
- ③ 「『命』の大切さー阪神・淡路大震災20年に改めて思う」
中山伸一さん(兵庫県災害医療センター長)
- ④ 「いのちを守る 一若者自殺対策 私たちにできることー」
清水康之さん(NPO法人 自殺対策支援センター ライフリンク 代表)
- ⑤ 「人生の終末を住み慣れた住まいで、その人らしく生活する」
関本雅子さん(関本クリニック 院長)
- ⑥ 「いのち、輝かせて」
笹原留似子さん(おもかげ復元師)
- ⑦ 「野球を通じて、子どもたちの夢を支援」
ミサキ電機株式会社(洲本市)
- ⑧ 情報ぶらざ



兵庫県マスコット
はばタン

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

「命」の大切さー 阪神・淡路大震災20年に改めて思う

兵庫県災害医療センター長

なかやま しんいち
中山伸一さん

阪神・淡路大震災から20年を迎えた今年の1月17日の前後、新聞やテレビ報道など当時を思い起こさせる記事や写真に数多く触れ、記憶の底にしまっていた、あの時の過酷な状況や命のはかなさと大切さを感じたことを思い出された方も多かったのではないのでしょうか？

阪神・淡路大震災での医療分野の最大の反省は、ふだんから万が一の災害にもっと備えておれば助かった、あるいは助けられることができた命があったということだと思います。その原因は、どの病院にケガ人がたくさん運ばれていて、患者転送や医療チームの応援が必要であるといった情報を医療機関で共有することができず、医療支援や患者転送を効果的に実施できなかったからです。

その反省と教訓をもとに、災害医療対応の司令塔として兵庫県災害医療センターは誕生しました。そして、県内の災害拠点病院を含む医療機関と消防などの災害関連機関が現在ではインターネットで結ばれ、災害時の医療情報やドクターカー、ドクターヘリ、DMATの現場派遣の必要性などの情報を共有します。こういった取組は、東日本大震災などの大きな地震災害だけでなく、JＲ福知山線脱線事故や京都府福知山市の花火大会での爆発

事故対応など、近隣での局地災害発生時にも命を救うために役立っています。

それでも、助けられない命があるのが辛い災害の現実。しかも大きな災害になると、この「公助」のシステムを被災地の中に適材適所に届けるには多少の時間を要します。だから、家族や近所に暮らす者たちどうしが自ら行う「自助」とお互いに行う「共助」がとても大切であり、その底力は阪神・淡路大震災、東日本大震災そして最近起こった長野県北部地震も実証しています。

ところで、人間は失って初めて、それまで当たり前だったものの価値やかけがえの無さに気づきます。今年、戦後70年を迎え、その間平和を当たり前のようには享受してきた日本の社会ですが、わが国においても世界においても「かくも『命』が粗末に扱われるのだろうか？」と目を疑う事件や武力紛争が起きています。私も災害救急医療に身を置く人間は、起こってしまったことに如何に対処するかという準備を頑張っておりますが、病気や災害そのものをなくすることができれば、それに越したことはありません。自然災害の発生をゼロにすることは人間には不可能でも、人為災害なら可能なはず。不幸な事故や紛争・戦争を減らす

英知を結集すべく、あの震災を経験した私たちは努力していくべきだと、そして今ある当たり前と思っているかけがえのない幸せのありがたさに改めて感謝する震災20年です。

最後に、20年の追悼式典にいられた天皇皇后両陛下が兵庫県災害医療センターに立ち寄られ、たくさんの方の命が突然失われた不幸な災害でしたが、その後一歩ずつ進んでいるのですねとおっしゃってくださったことを申し添えます。

※災害派遣医療チームのJ-Disaster Medical Assistance Team



東日本大震災翌日に
いわて花巻空港に参
集し、ミーティング
中のDMAT。

プロフィール

1955(昭和30)年、宮崎県生まれ。1989(平成元年)神戸大学大学院医学研究科修了。神戸大学附属病院等を経て、2012(平成24)年から現職。2001(平成13)年のインド西部地震では現地で医療活動を展開したほか、2004(平成16)年の但馬地方の洪水や2005(平成17)年のJＲ福知山線列車事故などでも救出医療チームとして活動。日本DMAT研修の西日本研修の総責任者。



東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生により、特に被災者にはどのような人権問題が起きていると思いますか。
(○は3つまで)

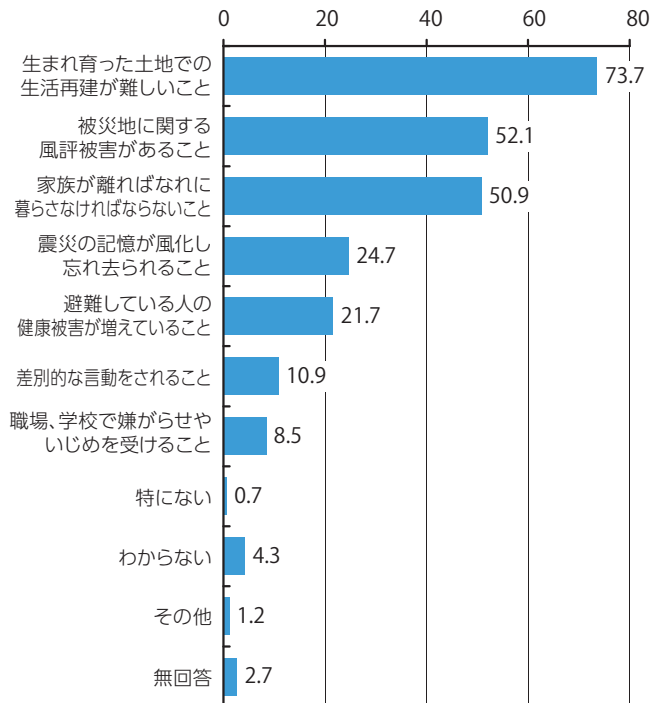
H25年度新規設問



多発する自然災害や高齢者、幼児への虐待事件による人命の喪失、あるいは生きることには希望をなくし孤独の中で自らの命を絶ってしまうケースなど、「いのち」に関わるさまざまな問題に対し、私たちはどのように向き合っていけばよいのでしょうか。
本号では、「いのち」の尊さを感じ、みんなで支え合える社会づくりについて考えてみましょう。

「東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題」

グラフで見る



H25年度調査 (n=1,210)

東日本大震災の発生からこの3月で4年目を迎えますが、いまだ多くの方が、悩みや不安を抱えておられます。

東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故による人権問題をみると、「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」が73.7%で最も高く、次いで「被災地に関する風評被害があること」(52.1%)、「家族が離ればなれに暮らさなければならないこと」(50.9%)の順に県民の皆さんの関心が高いことが分かります。



人生の終末を住み慣れた住まいで、 その人らしく生活する

関本クリニック院長

せきもと まさこ
関本 雅子さん

某新聞のアンケート調査によりまず「何歳くらいまで生きたいですか?」という質問に、「80代」と答えた方が最も多く、45%おられたそうです。日本はすでに超高齢社会に突入しており、2025(平成37)年をピークに高齢者の死亡率が急増することが見込まれています。

後期高齢者に必要なのはどのような医療でしょうか?病気は完全に治らなくても、地域での生活を続けられるよう身体も環境も整えてくれるような医療ではないでしょうか?すなわち「こんな型医療」から「生活支援型医療」への転換が必要です。また、高齢者のみならず、私たちが「自らの最期をどのように迎えるか」を考えると、「人生の終末を住み慣れた住まいで、その人らしく生活する」という選択もあるのではないのでしょうか?

れていた「緩和ケア」に関しては、WHOが「癌と診断された時からの緩和ケア」と定義したことで、国も県もWHOと同様の定義で、「緩和ケア」の推進に力を入れていきます。「緩和ケア」は癌拠点病院や緩和ケア病棟(ホスピス)で対応するだけでなく、地域における医療や介護、それに関係するさまざまな機関による協働で対応する必要のあるものです。また、医療用麻薬を処方することによって癌の痛みは緩和されます。最近では、地域の6割を超える調剤薬局がこのような処方に対応できるようになっています。

2011(平成23)年、兵庫県における癌の在宅看取り率は14.6%であり、全国2位になりました。ちなみに自宅で亡くなった癌患者さんは12.9%であり、施設で亡くなった癌患者さんが1.8%でした。

独居の高齢者の方でも、ご本人が自宅で最期を迎えたいと強く望まれるのなら、在宅での看取りも可能です。介護保険や福祉のネットワークを利用することで、実現することができるようのです。

最期まで自分らしく生活するためには、*リビングウィルを明確にし、身近な方に「自らの命・生き方・死に方に関する希望」を伝えておくことをお勧めします。

※自分自身の生前の意思

プロフィール

神戸市生まれ。中学の時にネパールの岩村昇医師の講演を聞き、医学部をめざす。1974(昭和49)年神戸大学医学部卒業、約20年の麻酔科・ペインクリニックの経験を生かし、1994(平成6)年六甲病院緩和ケア病棟を立ち上げ、その後、介護保険制度が始まった翌年の2001(平成13)年に、癌の方の通院と在宅ホスピスを主とした関本クリニックを開院し現在に至る。2014(平成26)年11月PHP研究所から「あした死んでも悔しいために、今やっておきたいこと」を出版。



新着図書紹介

しあわせ難病生活
♥それでも私は恋をする♥



著者 大橋グレース
あきえ 愛喜恵
発行所 竹書房
定価 本体 1,300円+税

柔道選手だった著者の大橋さんは北京オリンピック出場を決めた直後に進行性疾患の多発性硬化症を発症し、その2年後に余命7年を宣告されました。

重度障害者として24時間介護を受けながらも自立した生活を送っています。「恋する難病乙女」を自称しながら、つらいことがあっても「でも、大丈夫。今、生きてるし」と気持ちを切り替え、パートナーとの愛にあふれた生活を楽しんでいます。難病生活のエピソードをユーモアを交えて綴った本書は「今を生きる」ことのすばらしさを教えてくれます。様々な難病に苦しんでいる人の思いを理解するきっかけになる一冊です。

大橋さんは、NHK Eテレで毎週金曜日放送中のバリアフリーバラエティ『バリバラ』の出演者の一人。TVや講演など、バリアフリーな社会をめざして精力的に活動しています。

いのちを守る

若者自殺対策 私たちにできること

NPO法人
自殺対策支援センター
ライフリンク代表
しみず やすゆき
清水 康之さん

深刻な若年層の自殺

驚愕すべきことですが、日本の若年層（15～34歳の死因で最も高い割合を占めているのが自殺です。それぞれの年代における全死亡者数の内、15～19歳の約4割、30代の3割以上、20代においては約半数が、自殺で亡くなっています。先進主要7か国においても、こうした状況にあるのは日本だけです。

自殺の原因・動機は様々です。人が生きるには「生きることの促進要因」が必要ですが、それを上回る「生きることの阻害要因」を抱えたとき、自殺のリスクが高まります。「促進要因」とは、「自分自身を大切にすること」や「信頼できる人間関係」、「将来の夢」や「社会に対する信頼感」など、生きることを支えるものです。逆に「阻害要因」とは、「いじめ」や「虐待」、「パワハラ」や「失業」、「借金」や「孤独」など、生きることを阻むものです。

削られる「生きる促進要因」

若年層の自殺は、「生きることの促進要因」が小さくなっているがゆえに起きているものが多いように思います。中高

年の男性に多くみられる「社会的な阻害要因」が主な原因・動機の自殺であれば、そうした「阻害要因」を取り除くことで自殺のリスクを軽減できます。実際に、社会的な対策が広まる中で、経済生活問題による中高年男性の自殺は年々減ってきています。

しかし「促進要因」が小さいがゆえに起きている若年層の自殺は、「阻害要因」を取り除くだけでは防ぐことができません。日本では、例えば「自分にはよいところがあると思う」と答える子どもが小6（76.2%）よりも中3（67.3%）の方が低く（平成26年度「全国学力・学習状況調査」）、その後も低下していることを示す調査結果が多くあります。平成21年度にPTAが実施した高校生を対象とした調査でも「自分のことが好きか」との問いに対して「好き」と答えた割合は2割にとどまっています。「生きる促進要因」となる自尊心が著しく低いため自殺のリスクが高まりやすいのです。

私たちにできること

そんな暗澹たる状況の中で、私たちに

何ができるでしょうか。政策的にやるべきことも多々ありますが、個々人にできることも決して少なくありません。ひとつは、子どもたちに「そのままでもいいんだよ」というメッセージを送ることです。「〇〇でなければならぬ（そうでないと評価しない）」という条件を課すことなく、存在自体を肯定してあげることが大切です。

さらに、私たち自身が、子どもたちにとって「ああいう大人になりたい」と思われる存在になることです。大人は、「子どもたちにとっての未来」です。その「未来」が、日々つまらなそうに生きていたのでは、子どもたちに「暗い未来」をイメージさせてしまいます。「生きていけばいろいろなことがある。でも人生は捨てたものじゃない」。自信を持ってそう言えるように、大人一人ひとりが生きること。それが若者たちへの最大のエールになるのです。

プロフィール

NPO法人 自殺対策支援センター ライフリンク代表。自殺対策全国民間ネットワーク代表。



元NHK報道ディレクター。自死遺児たちの取材をきっかけに、自殺対策の重要性を認識。2004（平成16）年にNHKを退職し、ライフリンクを設立。10万人署名運動等を通して2006（平成18）年の「自殺対策基本法」成立に大きく貢献する。自殺対策の「つなぎ役」として日々全国を奔走中。

◆いのちの電話・自殺防止電話相談のご案内◆

あなたは決して一人ではありません。お悩みのある方は、下記相談窓口をご活用ください。



兵庫県 いのちと心のサポートダイヤル	078(382)3566	月～金 18:00～翌日 8:30 土・日・祝 24時間
神戸いのちの電話	078(371)4343	月～金 8:30～21:30 土 8:30～日 16:30(32時間) 祝休日 9:30～16:30 第4金 8:30～翌々日(日曜) 16:30(56時間)
はりまいのちの電話	079(222)4343	毎日 14:00～翌日 1:00
自殺予防いのちの電話	0120(738)556	毎月10日 8:00～翌日 8:00

取材ノート

ミサキ電機
株式会社
(洲本市)

野球を通じて、 子どもたちの夢を支援

洲本市五色町の小高い丘の上に立つミサキ電機。欧米に負けないシャンドリアを作りたいと創業された企業です。以来40年にわたり、さまざまな照明器具を開発販売してきました。最近では、LED照明機器の作製、板金加工や表面加工など幅広く事業を展開されています。

子どもたちに夢を

二代目社長の河野佳史（かわの よしふみ）さんは、スポーツを通じた地域づくりに熱心で、島内の少年野球を支援する団体「河平（かわひら）会」の代表も務めています。

河平会は、阪神タイガース球団の平田勝男ヘッドコーチと共に、野球を通じて、子どもたちに夢を与えようと、平成14年から同球団現役選手による少年野球教室を、淡路日の出農業協同組合と共同で毎年開催しています。今回（12月14日実施）は

12回目。平成19年度からは、兵庫県淡路県民局・徳島県が実施する淡路・徳島交流野球大会を、少年野球教室の前日に開催することで島内の一大イベントとなり、隣接する徳島県のチームも含め15チーム、約270人が参加しました。参加チームは抽選ですが、福祉施設の五色精光園チームや島内の女子プレーヤーによるチーム「淡路Angel star」が招待されました。

今年度の少年野球教室では、平田ヘッドコーチ、清水蒼選手のほか、阪神OBの赤星憲広さんから14名が、子どもたちを指導しました。また、赤星さんから淡路市、洲本市の小学校へ車いすの贈呈も行われました。

スポーツを通して人権を考える

チャレンジする勇氣やあきらめない情熱、他者を思いやること、力を合わせること、みんなと仲良くすることなど、スポーツには人権意識に通じるところがたくさんあります。県では、野球教室の合間に、「人権なるほどクイズ」を実施しました。「点字ブロックが最初に発明されたのはアメリカである、〇か×か」などのクイズを阪神タイガース選手たちと共に考えるというもの。参加した児童は「外国人に関する問題が印象に残っている。外国の人とも

仲良く暮らしたい」と感想を伝えてくれました。今後も人権感覚あふれるプレーに期待したいと思います。

広がるつながりの輪

会場となった県立淡路佐野運動公園野球場では、「あわじの食を楽しむ2014」のイベントも開催され、趣旨に賛同した淡路の福祉団体によるクッキーなどの食品や物品を販売するテントが並びました。他にも、県洲本土木事務所の事業PRコーナーやJA日の出による淡路ビーフの焼きしやぶ700食の提供などもあり、地域の人も数多く参加するイベントとなりました。

河野社長の思いが形になった少年野球教室。「性別や年代を問わず、野球を通して皆がつながる社会づくりに貢献していきたい」と活動はさらに広がっていきます。



クイズを通して、人権について考えました。



プロ選手の的確なアドバイスを受けて練習する子どもたち。

ミサキ電機株式会社

昭和46年守口市で創業。昭和50年津名郡津名町に本社工場を移設し、平成16年12月から洲本市五色町に本社を構える。従業員約270人。

TEL(0799)32-0370

洲本市五色町鮎原西110番地

映画紹介

マーチング明日へー

舞台は横浜。マーチングに関わる様々な人たちの思いを紡いでいきます。今年こそ全国の優勝を目指すマリ、ジャズプレーヤーになる夢のため退団しようとする忠信、東日本大震災で被災し忠信の家に避難してきている叔母の幸江とその息子洋介、福島で介護福祉士を続けている幸江の娘・美咲等々。そんな若い人たちの試行錯誤を温かく見つめる監督など年配者たち。

被災地・福島と音楽を通じて絆を結んでいく物語でもあり、様々な困難、心のキズを抱えながら、よりよい明日を目指していく群像ドラマでもあります。登場人物たちが、自身の抱える問題を正面から見つめ、挑戦していく姿には励まされます。各々の思い、それぞれの結んだ絆が収斂していくラストには大いに驚かされます。

歩きながら演奏し、縦横の隊形で曲想を表現するマーチング。撮影に全面協力している国内トップクラスのマーチングバンド・ヨコハマロビンスの演奏シーンと、友情出演の日野明正がトランペットを演奏するシーンだけでも一見の価値あります。



監督：中田新一
出演：竹富聖花・桜田通・香山美子・西郷輝彦
上映時間：111分

3月14日(土)に明石市民会館、25日(水)に姫路・花の北市民広場、14日(土)から20日(金)元町映画館にて上映されます。

お問い合わせ
兵庫県映画センター 078-331-6100



いのち、輝かせて

おもかげ復元師

ささはら いこ
笹原留似子さん

私は、専門職として、亡くなられた方の悲しみの現場に伺い、納棺というお別れのお手伝いをさせていただく仕事をしています。悲しみの現場の中では、遺された皆さんの悲しみの感じ方もそれぞれ違い、お一人おひとりのお別れの形があります。

突然死で亡くなったお孫さんの骨箱を愛おしく抱き、「この子は、僕をおじいちゃんにしてくれたんですよ。」と話してくださったことがあります。

遺された家族、親しかった方は、亡くなった方に対して、最初は「置いていかれた」という感情を持つことが多くあります。

そして一人で考えたり誰かに話すときに出る言葉の中にあるポイントは三つです。一つ目は、これからどのように歩むべきか等のその時々情報を求めている言葉。二つ目には、自責の念と向き合いながら自分自身に言っている言葉。三つ目には、亡くなられた方に語っている言葉。遺族訪問に伺うと、亡き家族のお写真に向かい、お話をされている方も多くいらっしゃいます。

遺された方は、亡き人を想い続けます。亡くなる人も遺されていく家族を想い、旅立たれます。お互いに思っていることに気が付く時が訪れます。大切な想い出の中から、遺してもらえた温もりを見付け、想い出と共に生きる道を探しています。

「死」は単独で存在するものではなく、「生」と共存しています。「死」が教えてくれることは、「生きる」ことの意味です。悲しみの中には、大切な想い出があります。悲しみは決して悪い感情ではなく、人に備わった大切な感情なのだと思います。生活の中で死を経験した時、「どう死を迎えたのか」「どう生きたのか」。死の中にあるものが遺された人を支えてくれる存在になっていきます。

生きることは、自分を探す旅なのかもしれません。生死を問わず大切な誰かの存在を意識した時、相手のいのちも、自分のいのちも輝いているのではないのでしょうか。

プロフィール

1972(昭和47)年、北海道札幌市生まれ。*おもかげ復元師として株式会社「桜」の代表を務める。東日本大震災後、津波被害の激しかった沿岸地域で、300人以上のご遺体をボランティアで復元し、遺族へのグリーフケアを行った。現在も納棺の仕事のかたわら、長期的視野に立った被災者支援の活動を続けている。2012(平成24)年1月、社会に喜びや感動を与えた市民に贈られる「シチズン・オブ・ザ・イヤー」を受賞。

※事故や災害などで傷ついた遺体を生前の姿に重ね合わせて復元し、遺族の悲しみを軽減する仕事。



人権啓発ビデオ

「あなたに伝えたいこと活用ガイド」のご紹介

人権啓発ビデオ「あなたに伝えたいこと」を使用した研修会等で、理解をより深めていただくための活用ガイドを作成しました。あらすじとポイントとなる台詞、学習展開例やワークシート、巻末には参考資料等をつけて、15ページにまとめました。ビデオをご購入くださった方にお渡ししています。ビデオと合わせて、ご利用ください。また、このガイドは、協会ホームページにも掲載しています。

<あなたに伝えたいこと：テーマ「インターネット時代における同和問題」>

あらすじ：主人公は若い女性。親友の父親の洋食店がインターネット上で悪質な書き込みを受け、ネットの怖さとともに対応方法を知る。また恋人との結婚をめぐる、身元調査や結婚差別など根深く残る同和問題に対し、主人公が周囲の協力を得て立ち向かっていく感動的な物語。



のじぎく文芸賞作品集をご活用ください

県民の皆さんの人権意識の高揚を図るため、兵庫県と協会が毎年公募する「のじぎく文芸賞」。このたび、平成26年度の最優秀賞4編、優秀賞7編を収録した作品集が完成しました。図書館や市役所等の公共施設、県立のじぎく会館などで閲覧することができます。人権啓発や研修の場でぜひご利用いただければと思います。

古山桂子審査委員長の総評(一部抜粋)

…自分がされていやなことは、他人にもしてはいけない、一番大事なものは人に対する思いやりだと。…応募作品は、いじめ、差別、病気、障害、事故や災害、沖縄や拉致問題まで内容は多彩ですが、どの作品にも一貫しているのは優しさ、思いやりです。私はそのことに感銘を受けました。…

イベントガイド

もとまち ハートミュージアム 2015 ～復興20年、人つなぐ道～	日時 3月27日(金)～31日(火) 場所 神戸元町商店街 ①こうべまちづくり会館 ②神戸風月堂元町本店 ※①地下鉄「みなと元町」駅から徒歩約1分、神戸高速「花隈」駅から徒歩約3分 ※②JR・阪神「元町」駅から徒歩約5分 障がい者アート作品展「ドキドキ展ーいろ・イロ・色」〈会場①〉、WAKKUNのライブペインティング〈会場①〉、コンサート「もとまちウキウキ」〈会場②〉、東日本大震災復興支援プロジェクト・作業所製品バザール〈会場②〉など ※各催しの開催日時は実行委員会事務局に問い合わせください。	問い合わせ もとまち ハートミュージアム2015 実行委員会事務局 TEL 078-252-8280
---	---	---

インターネットで「人権文化をすすめる県民運動」の模様を配信中!

人権文化をすすめる 動画 検索

人権に関する川柳を募集します!

いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。優秀作品は必ずに掲載し、オリジナルクリアファイルをプレゼント。

募集テーマ 子ども、男女共同参画、多文化共生

応募方法 はがきか、ファクス、メールで受け付け。郵便番号、住所、名前(ペンネーム使用の場合も併記)、年齢を明記の上、ご応募下さい。4月13日(月)締め切り。(応募はお1人1点とします。)

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限ります。

応募先 (公財)兵庫県人権啓発協会(下記参照)

ハーフ half タイム time

内閣府の統計によると自殺者数は減少傾向にあるものの、依然として交通事故死亡者数をはるかに上回る多くの尊い命が失われていることが分かります。一人で悩み苦しむことのないように、お互いのことを自然に気かけ、支え合える社会になればと思います。

昨年4月より紙面をリニューアルし、今号で1年が経ちました。人権メッセージを伝え広めたいという本紙の思いを乗せて、小さな女の子が空に向かって飛ばした紙飛行機は、毎月いきいきと輝いている人たちの周りを飛び、たくさんの笑顔を広めてきました。来年はどのように紙飛行機が飛ぶのでしょうか。平成27年度の「きずな」も楽しみにしてください。

(小池)

「きずな」は、協会ホームページからでもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
 TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 ✉info@hyogo-jinken.or.jp

兵庫県人権啓発協会

検索

2015(平成27)年3月発行